

平成 29 年度 第 3 回西宮市生物多様性推進部会 議事録（発言要旨）

- 開催日時: 平成 30 年 2 月 21 日(水) 13:00～15:00
- 開催場所: 西宮市役所 東館 7 階 701 会議室
- 出席委員: 服部部会長、遠藤副部会長、佐山委員、大谷委員、小川委員、江川委員
- アドバイザー: (株) 里と水辺研究所 主任研究員 田村氏
- 事務局: 環境局長 他 11 名

1. 「御前浜公演予定地の自然環境保全のあり方に関する意見交換会」実施報告

- ・ コウボウシバの問題はどうなったのか。(委員)
 - 波打ち際に、残っているコウボウシバは保全していく。また、不自然に海浜植物が無くなっている場所があるので、海浜植物が生えるように保全していく。北側の草原の復元に関しては、マンパワーが必要になる。現状の草原を維持する為に、どのくらいの頻度、草丈で草刈りを行うかを活動団体と一緒に、議論を深めながら引き続き管理方法を検討していく。(事務局)
 - 現状の草原とは何か。(委員)
 - ヨモギ群落に代わる植物である。(事務局)
 - シナダレスズメガヤやチガヤが一部ある。チガヤを広げられるようにしたい。(アドバイザー)
- ・ チガヤは、海浜の前線には自生せず、どちらかという後ろの方に生えてくる。チガヤからトベラ、高木林の順番で生えてくるので、チガヤが一種の境界線になっている。(委員)
- ・ 決められた場所のみコウボウシバが残っている状況であり、それが不自然に見える。また、本来の生育地でも抜かれているケースがあるので、海辺のコウボウシバは残す方針である。(アドバイザー)
- ・ コウボウシバの上に人が座って、踏み固められコウボウシバの適地ではなくなり、ハゲた状態になってきている。(委員)
- ・ 砂地に戻そうとする活動は、草を抜くことで、固くなった砂が元の砂浜に戻り、コウボウシバが生えやすい環境になってきている。波打ち際のみが、コウボウシバの生育域ではなく、陸域までエリアを広げることが可能であれば、検討していきたい。(事務局)

2. 「生物多様性シンポジウム」実施報告

- ・ 市民団体の活動が成り立つには、行政の支援や色々な取り組みが必要である。その行政などの取り組みの紹介もプログラムに入れていた。そのため、(時間配分の関係で)発表者へ質問する時間が取れなかったのも、参加者の不満があったかもしれない。(委

員)

- ・ 次の世代へ引き継ぐための学校教育との繋がりも、体系的に市民に見えるようにしておかないと「単発でしか環境学習を行っていない」との理解になってしまう。今回の環境基本計画改定の中で、環境学習の取り組みも含めて体系的に市民に提示できればと思う。(委員)
 - ・ 様々な団体が、各々の思いを持って活動しているので、内容がバラバラになるのは仕方ないが、1つのテーマに対して、全員で議論していく方が、市民にもわかりやくよいのではないか。(委員)
3. 「西宮市環境計画推進パートナーシップ会議」実施報告
- ・ こちらに関しては、特に質問がないかと思われる。(委員)
4. 「第3次環境基本計画(素案)」の生物多様性に関する部分について
- ・ 資料3では、「山・川・海、まち」と書かれているが、資料9では、「まち・山・川・池沼・海」と表現されているので、統一した方がよいのではないか。(委員)
- 上位計画と合わせる。(事務局)
- ・ 武庫川の河川敷で、昔の植えた松を切っているが、市民から防災上切らなければならないとの意見と樹齢50~60年の木をなぜ切るのかとの意見が出ている。生物多様性と安全・安心(防災)が対立する形になるので、生物多様性を保全する際に、防災面では何を配慮しなければならないか、また、安全・安心を進めていく際には、生物多様性の面で何を配慮しなければならないか、両方からの考えを記載した方がよい。(委員)
 - ・ 生物多様性と防災は、一部対立する時がある。その場合、人命に関わる防災が優先される。今後、どのようにしていくのか検討が必要である。(委員)
 - ・ 生物多様性の戦略では、生態系毎にエリアを区切り、行動計画を立て、その中で、生物多様性の多面的な機能を表現している。資料3の環境目標 生物多様性に関しては、パートナーシップ会議時に提出したもので、生物多様性に特化して書かれているが、現在は他の目標との相互関係も加味して修正している。(事務局)
 - ・ 前回のパートナーシップ会議で、「低炭素」、「生物多様性」、「資源循環」、「安全・安心」の繋がりが見えにくいとの指摘を頂いたので、その表現に関しても現在検討中である。(事務局)
 - ・ 事業者が、工事をする場合、市に報告する義務ができるということか。そうでない場合、文言を掲げるだけで、意味がないのではないか。(委員)
- 大規模な工事だと環境影響評価を行わなければならないが、規模の小さな工事であると環境影響評価を行わないのが現状である。(委員)
- ・ P2の「③情報共有と調査体制の仕組みづくり」に市民自然調査のホームページが載っているが、どの情報を誰が判断して、生物多様性に貢献していくのかと考えた時、関

係者全員が、情報を見られるようになっているのか。(委員)

- ・ また、どこをみれば必要な情報が見られるのか、その場所に情報は蓄積されているのか。その体制があれば、事業者が工事をする際、配慮するものがあるのか無いのか判断できる。また、行政の役割として、情報をチェックすることが必要ではないか。(委員)
- ・ 兵庫県では、レッドリストを公開しており、植物の種ごとに個体群の分布を公開しているので、事業者に配慮するように頼むことができる。(委員)
- ・ 資料5 第3章のP3-5の「将来像の実現に向けた数値目標」で、環境計画の生物多様性の「(2)まちの緑を育む」とあるので、数値目標とリンクできるとよいと思う。(委員)
- ・ 目標2の「市内における生き物の生息状況を把握する。」とあるが、「～継続して把握する」と記載してもよいのではないか。また、「外来種を増やさない」という観点も必要ではないか。(委員)

5. 「(仮称)第2次生物多様性にしのみや戦略」について

- ・ 西宮市版の各種個体群レベルの分布のレッドリストを作成する予定はないのか。(委員)
 - 前回の戦略でレッドデータブックを作成しているので、今回それを情報発信していきたい。(事務局)
 - 個体群レベルの分布を公開することで、事業者の個々の工事に対応できるのではないか。(委員)
- ・ ヤシの保全と外来種対策、命の大切さと外来種駆除等の生命倫理と環境倫理の矛盾など、生物多様性に関連することで矛盾する内容をどのように表現するか検討しなければならぬ。(委員)
 - 本来なら両論を記載すべき内容もあるが、計画の情報量が膨大になるため難しい。ホームページを通じた情報発信で、希少種の分布の公開も含めて、生物多様性の矛盾点や問題点、西宮市の考え方を掲載できればと思う。(事務局)
 - 保育士の研修でも「外来種は悪いから駆除する」という内容を、生命倫理も踏まえて、園児達にどのように伝えるかが課題となっている。理念として決めておかなければならないが、「これが正しいからこれをしなさい」という環境学習は無い。だが、学習内容は、その議論のプロセスとリンクしておかなければならない。(委員)
- ・ 生命倫理と環境倫理の問題など、計画の本文に載せるのが難しいものは、コラムで記載すれば市民には、わかりやすくよいのではないか。(委員)
 - 在来の希少種が、外来種に依存して生きている例も多いので、その場合、外来種問題はどのようにするかをコラムにしてもよいのではないか。(委員)
- ・ 「生物多様性に配慮した開発」とあるが、事業者は指針が無いと、何に配慮して取り組めばよいかわからないので、指針づくりは行政で行う。各取り組みの主体毎の役割

を明記した方が、イメージがわかってよいのではないか。(委員)

- ・ 資料 8 に「学びの場と機会の充実」とあり、写真は甲山自然環境センターのみとなっているが、可能であれば全施設を載せてもよいのではないか。山・川・海・都市緑化など分野別に掲載するか、「1 番目の施設は～、2 番目の施設は～」のように行動のステップアップしていく掲載の仕方では印象付けできたらよいのではないか。(委員)
 - ・ 実際に市民の方が、生物多様性に貢献できる活動に参加できる機会は少ないので、多くの人の努力で、夙川、仁川でホテルが見える環境になった事を知っている市民は少ない。地元の人でも地域の変化を知らない事が多いので、その点の関心をもってもらう工夫も必要である。(委員)
 - ・ 10 年に 1 回、市民自然調査が行われるが、1 万人近く市民が参加している。他市では、同様の調査を行った場合、200～300 人程であるのを見ると、西宮市の市民が積極的なことがわかる。また、学習施設に行ったら、「次はこの活動に参加する」など行動のステップアップが明確にあれば、次のすべき行動がわかる。(委員)
 - ・ 企業でも、「何かしたいが何をすればよいのか」が本音であるので、市が活動団体と企業をマッチングさせる支援をすれば、企業も環境活動へ参加しやすくなるのではないかと。(委員)
 - ・ 環境活動をしていく中で、拠点が無い人が多いので、環境活動団体を紹介するシステム、施設があればよいのではないか。(委員)
- その点は、強化していきたいと思う。
- ・ 評価体制のところ、「ホームページを活用して」とあるが、受け身の印象だと思う。情報を集める器だけでは、うまく行けば機能するが、もっと積極的に情報収集できる仕組みが必要ではないか。(委員)

6. その他

- ・ 次回の生物多様性推進部会の日程は、次年度の 7 月頃に開催予定。その際、皆さんから頂いた意見を反映して、戦略の案を提示したい。(事務局)